

# ちばの地域福祉

## 「中核地域生活支援センター大会 2014 を終えて」

中核地域生活支援センター長 生ひなた 所長  
中核地域生活支援センター大会 2014 実行委員長  
渋沢 茂

先月号でお伝えをいたしました、中核地域生活支援センター大会 2014 を終えました。今年のテーマは「これからの地域社会のあり方を考える～支え合って生きること、自分を大切にすること～」。これまでの大会で考え続けてきたことを踏まえて、どんな視点でこのことと向き合うのかを考え合うためにテーマの設定をしました。

基調講演の宮本先生から以下のようなお話をいただきました。就業人口数から産業構造が土建国家から保健自治体に変化していること。地域持続の鍵として女性の現役世代層が重要視されること。これまで支える側の層とされていた人が「まんまるぴかぴかの（若く、健康で、障害がなく、自立している）」個人であるというのは虚像であること。2015年の介護保険・生活困窮者施策・子ども子育て支援の改革で自治体に次々に新しい課題が降ってくること。

これらのことを指摘した上で、誰もが排除されない社会のための5つのキーワードとして以下の提起をいただきました。①新しいワンストップサービス②自治体の福祉・雇用連携③「ベーシックワーク」新しい公的雇用の創出④共生支援「弱者」の行政的括りだしを超えて⑤地域包括ケアの包括化。地域包括ケアと困窮者支援をつなぐこと。

午後は中核地域生活支援センターの実践報告の後、県内の実践者のお話を伺いました。いずれのお話も午前中の宮本先生の理念を具体化したような実践です。逆に言えば今回登壇いただいた方も含めて、全国に数多ある活動のエッセンスを集約したのが宮本先生の基調講演だったようにも感じました。

これからの地域社会のあり方を考える時、現状の認識と今後の方向性についての共通理解をすることが重要と、改めて思いました。そして最大公約数をどうやって作るか。

お一人お一人の暮らし方と、それに関わっている活動のあり方を地域の課題として共有することが必要です。20年前より、10年前より、そのことは確実に進んできているけど、まだまだ足りない。遠回りのようですが、それを深めていくことが必要です。

# 中核地域生活支援センターの地域づくり

君津ふくしネット 所長 西山 信男

君津ふくしネットは房総半島の内側、森田健作知事が率先し、通行料を継続して800円にした東京湾アクアラインの千葉県側にある木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市の4市で、晴れた日には神奈川県の大磯から横浜、遠くには富士山、また東京スカイツリーが見えるところで、人口約33万人の圏域です。

「地域づくり」で最初に誕生したのは、君津圏域障害者グループホーム等連絡協議会でした。千葉県では、中核センター事業と同じ圏域にグループホーム等支援ワーカーが配置されました。圏域には、千葉県内から集まった入所者の地域移行を進める社会福祉事業団があり、その近くには地域移行を果たしたグループホーム入居者がたくさん居られ、ホームの数も50か所になろうとしていました。支援ワーカーは、各事業所を回り、グループホーム・ケアホームの10か所と生活ホーム(千葉県独自のグループホーム制度)3か所の、圏域全ての事業所からなる連絡協議会を発足しました。設置者に新たな制度の説明や研修会、世話人の情報交換の場の提供、そして入居者の地域イベント参加や企画等、今でも毎月のように定例会を実施しています。現在の事業所は24か所、ホーム数は125か所、入居者は566人(ホーム平均4,5人)となっています。

これと並行して、事務局を担当する地域づくりが始まり、毎年8月14日と決まっている木更津港祭りの「やっさいもっさい祭」では、高齢者・障害者・児童で120人の「どたばた連」を組み、2時間踊り続ける祭りに9年連続参加しています。今年は企業、病院、有志等の参加60連・4400人が踊り、会場を大いに盛り上げています。また、終了後の会場ゴミ拾いも、参加者全員の仕事です。

地域で困った感のある方の集まり、「心のバリアフリー研究会」も毎月1回の定例会で、8月には第108回を開催しました。精神科クリニックのDr・地域作業所・精神保健福祉のボランティア等の協力で、参加者は聞くだけでなく、話すことが出来る環境づくりに心掛けています。

君津ふくしネットに限らず、各中核センターの「相談支援」「権利擁護」「地域づくり」の結果、全国種々の相談支援事業所に比べても、連携・協働する機関は、年々多くなっていると思います。福祉関係に限らず、医療・教育・法律・宗教・その他に及び、地域のニーズに、その都度対応して、守備範囲はさらに広がられています。中核センターの職員は、圏域を越えて支え合い、また経験を重ねたコーディネータは、相談者の側に立って、きめ細かい支援を続けています。この互いを支え合う人の輪が10年を経て、幾つもの「地域づくり」に活かされ、中核地域生活支援センターが千葉県民に理解され、根付いたのだと思います。

君津ふくしネットは、これからも先駆的福祉活動を通じて、地域の多様な資源を構築し、住民の方々の福祉サービスに努力し、誰もが住みよい地域を創っていきたいと思っています。

君津圏域 中核地域生活支援センター 君津ふくしネット

【対象地域】 木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市

【連絡先】 〒293-0012 富津市青木 2-16-14

TEL : 0439-27-1482 FAX : 0439-88-1481

# ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

## 「カフェ・優」の三浦ひろ子さん

2014年7月、市川市須和田地区に「きなりの街すわだ」が誕生しました。これは、社会福祉法人生活クラブ風の村が市川ガンバの会と協力して、誰でも入居できるユニバーサルなケア付き住宅として開設したものです。今回ご紹介するのは、きなりの街すわだの2階建ての建物の1階にオープンした、「カフェ・優」の店長、三浦ひろ子さんです。優では、きなりの街すわだの12人の入居者に食事を提供する他、地域に開かれたスペースとしてランチや飲み物を用意しています。



三浦さんは東京生まれ、結婚を機に市川に住むようになりました。4人の子どもを育て、2人の介護をするかたわら、パートでいろいろな仕事を経験、子育てや介護を終えた頃に誘われて学童クラブの指導員も経験しました。

「人間が好きなのよね」と話す三浦さんは、なかでも食べ物のことや食べる人のことを考えて作って出す、食堂の仕事に魅かれたそうです。パンやケーキ作りの教室に通った経験も生かして自分でカフェを始めました。そして、カフェを通じていろいろな人に会い、「【あたりまえ】って何だろう？」と考えるようになりました。「人間はおぎゃあと生まれて育て年取って必ず死ぬのがあたりまえ。いろいろな人がいるのもあたりまえ。その【あたりまえ】のことができないから、なんだかおかしいことになるのよね」と三浦さん。

カフェに食べに来ていた生活クラブのスタッフから誘われたのが、きなりの街に関わるきっかけとなりました。きなりの街にはいろいろな人たちが暮らし始めていて、三浦さんの知り合いも入居しています。三浦さんは、「食べるものに好き嫌いがあるのはあたりまえのこと。子どもじゃないんだから、一方的に作って『さあ食べなさい』というわけにはいきません。好き嫌いを把握して食事を出せば、みなさん残さずにきれいに食べてくれますよ」と話します。きなりの街のある須和田地区は、三浦さんが以前住んでいた場所。カフェに来ていた人たちや地元の知り合いも自然に顔を出すようになり、子育てや仕事などの日常をおしゃべりする居場所ともなっています。

「一生懸命やっていけば伝わります。頑張らなくていい。皆が、たくさんの人、いろいろな人に出会って、節目節目で、自分のこと、あたりまえのことに気づくことができるといいですよ」。

みなさんもどうぞ市川にお越しの際は、カフェ・優にお立ち寄りください。



### カフェ・優

市川市須和田 1-23-4 きなりの街すわだ内  
(京成線「市川真間」駅徒歩10分)



## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

### 第41回国際福祉機器展 H. C. R. 2014

- [内 容]** H.C.R.2014 は、ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めた国際展示会です。保健医療・福祉・介護の各分野の制度改革や事業活動を紹介する国際シンポジウム、セミナー情報なども下記ホームページに記載されています。ぜひご参加ください。
- [日 時]** 平成26年10月1日(水)～平成26年10月3日(金) 10:00～17:00
- [場 所]** 東京ビッグサイト  
東京都江東区有明3-11-1 東京ビッグサイト  
TEL: 03-5530-1111 (代表)
- [参加費]** 無料・登録制(一部プログラムは有料です)
- [ホームページ]** <http://www.hcr.or.jp>
- [申 込]** ホームページから事前登録ができます。(当日受け付けも可能)
- [問合せ先]** 一般社団法人保健福祉広報協会(H.C.R2014事務局)  
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル5F  
TEL: 03-3580-3052 FAX: 03-5512-9798

### 心の健康フェア2014inちば

#### 『夢』～新しい未来に向かって～

- [内 容]** 今年も多くの県民の方々に精神保健福祉に関心をもってもらおうと、心の健康フェアが開催されます。皆様、ぜひご参加ください!
- [プログラム]** 講演「自殺予防にかかわって」  
講師: 日下忠文(一般社団法人日本いのちの電話連盟 理事長  
NPO 法人千葉県精神保健福祉協議会 会長)
- 演劇「夢に向かって」すずらん劇団  
当事者からのメッセージ「私のかなえたい夢」  
精神保健福祉事業功労者表彰  
精神保健福祉関係団体の作品展示  
心の健康相談
- [日 時]** 平成26年11月5日(水) 10:00～15:00
- [ホームページ]** <http://chiseikyo.mdn.ne.jp>
- [場 所]** 青葉の森公園芸術文化ホール(〒260-0852 千葉市中央区青葉町977-1)
- [参加費]** 無料(手話通訳あり) **[申 込]** 不要
- [問合せ先]** 千葉県健康福祉部障害福祉課  
TEL: 043-223-2334

発行元: 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局: 長生ひなた(長生圏域) 茂原市長尾2694

TEL: 0475-22-7859

FAX: 0475-22-7844

編集: いちはら福祉ネット(市原圏域) 市原市東国分寺台3-10-15

TEL: 0436-23-5300

FAX: 0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちはら福祉ネット(担当: 高地)までお願いします。